

ココラボJOラジオ 2026年3月



サステナビリティと企業経営

ゲスト:内田裕子氏(経済ジャーナリスト)



[第1回]
日本のサステナビリティ
4つの主要課題

サステナビリティとは何か？ —「環境」ではなく「未来の経営OS」—

SDGsの「SD」にあたる持続可能な開発とは

「将来世代のニーズを損なわず、現在世代のニーズを満たすこと」。

これは環境保護だけの問題ではなく、企業が長期的に価値を生み続けられるかどうかという、経営の根本に関わる考え方である。

いま世界では、サステナビリティへの対応が単なる「善意」ではなく「競争条件」になっている。

なぜ今、サステナビリティが経営課題なのか —財務だけでは企業価値を測れない時代—

サステナビリティ課題は、すでに事業リスクそのものになっている。

投資家・顧客・取引先は「この企業は10年後も存続できるか？」を見ている。

サステナビリティは、リスク管理の戦略であり、同時に成長戦略でもある。

日本が直面する4つの主要課題(全体像)

—日本は“課題先進国”—

日本のサステナビリティ課題は、次の4分野に集約される。

- ① 気候変動
- ② 資源問題(循環経済)
- ③ 人権問題
- ④ 人的資本

これは「遅れ」でもあるが、裏を返せば巨大な改善余地=ビジネスチャンスでもある。

4つの課題①②: 気候変動・資源問題

—脱炭素と循環経済は産業政策—

気候変動では、各国が脱炭素を国家戦略として進めている。

一方、日本は再エネ・移行計画・情報開示で遅れが目立つ。

資源問題では、EUが「循環経済」を法制度化するなど、各国で取り組みが進む。

日本は「もったいない」意識は高いが、仕組み化が弱いことが課題である。

4つの課題③④：人権・人的資本 —人と組織が企業価値を決める時代—

人権問題は、サプライチェーン全体の信用リスク。

人的資本は、コストではなく投資対象として扱われ始めている。

長時間労働、外国人技能実習制度、女性管理職比率など、

日本企業は世界から厳しく見られ始めている。